



富山県

水稲作業と競合の少ない「富山型モモ栽培体系」の確立

富山県農林水産総合技術センター 園芸研究所 果樹研究センター

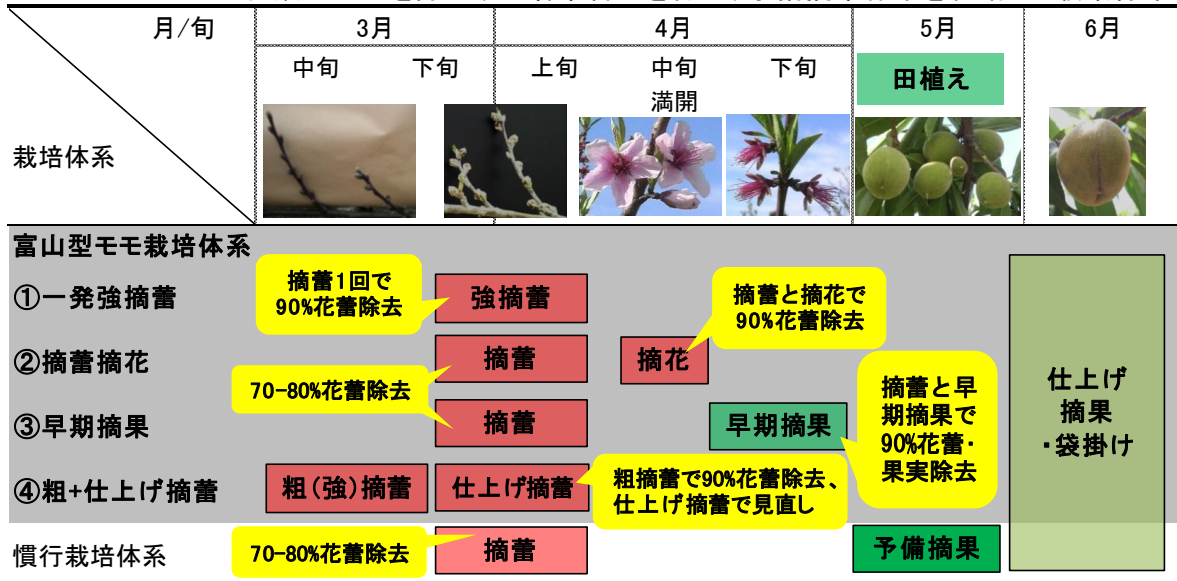
1. 背景とねらい

富山県内の新規モモ生産者は主穀作経営体がほとんどですが、近年、成園化にともなう労力増加と田植え時期の繰り下げによる作業競合により、予備摘果が十分行えず、生産量の減少や果実品質のばらつきが問題となっています。そこで、各経営体の保有労力や作業体系に応じた水稲作業との競合の少ないモモの着果管理技術「富山型モモ栽培体系」を確立しました。



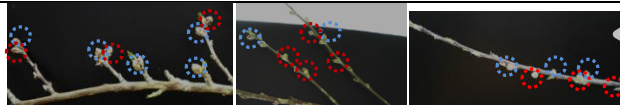
2. 成果の内容

富山型モモ栽培体系とは、5月の田植え作業と競合を避けるため、3~4月に全花数の90%を除去する着果管理を行い、予備摘果作業を省略した栽培体系です。



栽培体系	残す花蕾(果実)の長さ(cm/個)	結果枝の種類(果枝長cm)		
		短果枝(15cm未満)	中果枝(15~30cm)	長果枝(30cm以上)
富山型	15	先端付近に1個	中央部に1~2個	中央部に3~4個
慣行	8	先端付近に1~2個	中央部に2~3個	中央部に4~8個

* 残す花の位置
富山型 ● のみ
慣行 ○ ● の両方



慣行摘蕾後に残る花数から、さらに半分の花数に制限する!!

図 富山型モモ栽培体系(上:着果管理体系,下:結果枝別における残す花の位置)

表 収量・果実品質・作業時間

収量・果実品質は同等!! 合計作業時間が短い!!

栽培体系	収量 (t/10a)	果実品質				果形指数 1不整形 ~5整形	作業時間hr/10a						計
		平均果重 (g)	硬度 (kg)	糖度 (Brix°)	酸度 (pH)		粗摘蕾 (3月中-下)	摘蕾 (仕上げ摘蕾) (3月下-4月上)	摘花 (4月中)	早期摘果 (4月下)	予備摘果 (5月)	仕上げ摘果 (5月末-6月)	
富山型モモ栽培体系													
①一発強摘蕾	2.5	298	1.9	13.0	4.48	3.5	0	44.0	0	0	0	15.0	59.0
②摘蕾摘花	2.4	301	1.8	13.2	4.64	3.3	0	36.5	20.0	0	0	12.0	68.5
③早期摘果	2.3	301	1.9	13.4	4.63	3.8	0	36.5	0	24.5	0	11.0	72.0
④粗+仕上げ摘蕾	2.3	301	1.9	12.7	4.44	3.4	40.0	8.5	0	0	0	12.5	61.0
慣行栽培体系													
	2.4	289	1.8	12.9	4.56	3.5	0	36.5	0	0	35.5	11.0	83.0

3. 成果の活用

水稲の田植えとモモの予備摘果との作業競合が想定される経営体の保有労力や作業体系に応じた省力技術として活用できます。また、作業分散が行えることで、モモ栽培面積の拡大も期待できます。